

2011年3月1日

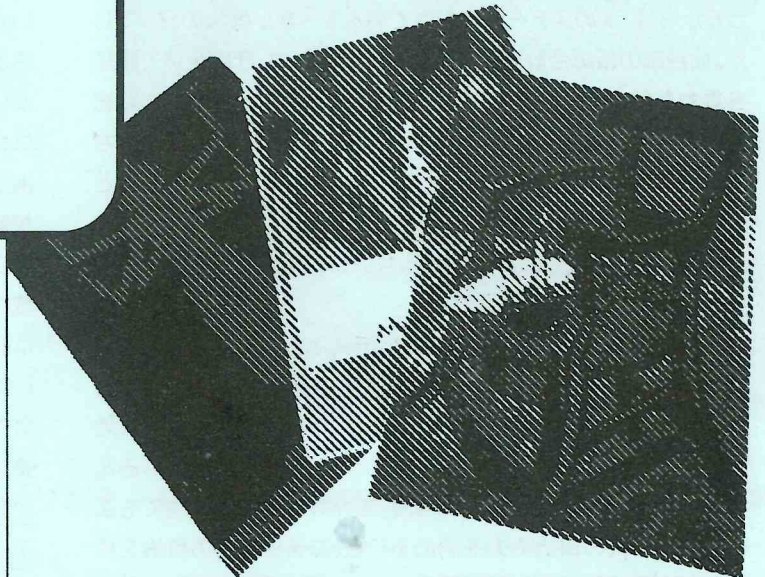
Vol.74

みみん みみん



【題字】谷川俊太郎さん

MY FAVORITE お気に入り小物拝見



理事対談のゲスト、並河紋子さんのお気に入りには、ゴッホの画や阿修羅像がプリントされたクリアファイル。並河さんは、オフタイムに博物館や美術館を訪れるのが趣味で、その際必ずミュージアムショップに立ち寄り、思い出にクリアファイルを購入されるとか。クリアファイルは書類整理に大活躍。並河さんにとっては、楽しく仕事をするために欠かせないアイテムとなっているそうです。

■目次

- P2~3 理事対談
(仙台市市民局市民協働推進部 部長 なみかわあやこ 並河紋子さま
×代表理事 加藤哲夫)
- P4~6 せんだい・みやぎNPOセンターの事業から
(2010年12月—2011年1月)
- P7…… 韓国視察団を迎えて
冬のインターンシップ報告
- P8…… 新規会員・継続会員、編集後記、お知らせ、連絡先等

理事対談

仙台・市民協働の新たなステージに向けて

今回は、平成22年度の組織変革で新設となった仙台市市民協働推進部の並河紋子部長と、加藤代表理事の対談です。仙台市の市民協働推進における現状と今後についてお話を伺いました。

■二つの柱を立て協働を推進

加藤：並河さんが市民協働推進部の部長になられて約10ヶ月が過ぎました。これまで市民協働について現場でどのような議論がなされたのか、その辺りからお話を聞かせてください。

並河：市民協働推進部は、市民活動の支援と町内会など地域団体の支援を一緒に行っていた部署から、主にテーマ型の市民活動を推進している部分を独立させてできた部です。4月に新設となったからは、次のステージに向けて何をすべきか模索の日々でした。仙台市の新総合計画（註1）の策定も進む中、庁内全体で議論を重ねた結果、ある程度の方向性が見えてきたところです。新総合計画では都市経営の方針を大きく4つ立てています。そのうちの2つが、市民力を発揮することができる協働の環境を作ること、そしてきめ細かな地域課題に対応した地域協働を進めていくことです。市としてはこの2つの柱で、互いに相乗効果を狙いながら市民協働を進めていく考えです。

加藤：組織改変では特にテーマ型の市民活動の分野を独立させ、協働を強力に推進させつつ、市民活動と官民協働の推進を両輪で進めていこうという意図ですね。私は、市民力発揮とは市民活動だけでも官民協働だけでもなく、もう一つ市民と市民の「みんな」の協働があると考えています。役所が出はらわなくてもよい領域で市民の自治の力を高めること、つまり市民の自治を意識した協働です。これらの整理をしっかりと行い、職員、地域住民、

NPOにもそこを伝えた上で、それぞれの役割を確認する必要があるかなという感じです。

■市民力発揮のための環境整備を！

加藤：検討の結果、次年度以降にどのような政策を実施していこうとお考えでしょうか。

並河：市民協働の新しい枠組みづくりとしては、多様な方が市政へ参画して頂ける環境の整備を、今の時代に即して見直すことが一つの大きな柱になっています。公共の枠を広げる新しい取り組みの一つとして、「協働事業提案の仕組み」も作っていきます。また、市民の皆さんが市民力を発揮できるような環境も整備していきます。いろいろと出てきていますが、一つは情報の整備です。さまざまな活動事例や人材に関する情報を見える化し、市民が使いやすいツールになるよう発信していきます。そしてもう一つは場所ですね。地域の中で、いろいろな活動ができるように地域拠点の再整備も行っていきます。

加藤：多様な人々の市政への参画を促すためいろいろな施策をうつのだということですが、「市政への画」と言うのか、「公共領域への参画」と言うのかで、大きく定義が違ってくると思います。市政への参画というと、どうしても市役所事業への参画となってしまう。地域住民が自ら問題を解決するためには、できれば公共領域への市民参加（参画）と定義した上で基盤整備をする必要がありますね。「自治」の土台があり、その上に「参画」や「協働」がある。自治の基盤を豊かにしないと、参画も協働もないわけです。今まで行政は町内会とはつきあっていましたが、地域の市民の自治にどんなふうにつき合うか、政策過程にとりあげて言ったことがありません。その視点が出てくると、政策全体の統一性が出てくるのではないかと思います。もちろん行政への参加の制度化は重要です。

並河：総合計画づくりを進めてきて、だいぶこのあたりの理解は進んできているなど感じています。ただ、まだまだ混乱している部分はあるので、事業や事例を通じて確認していく必要があります。地域政策と市民協働推進が車の両輪となり、それぞれしっかりと進めることによって、自治の部分もきちんとしてくると思います。

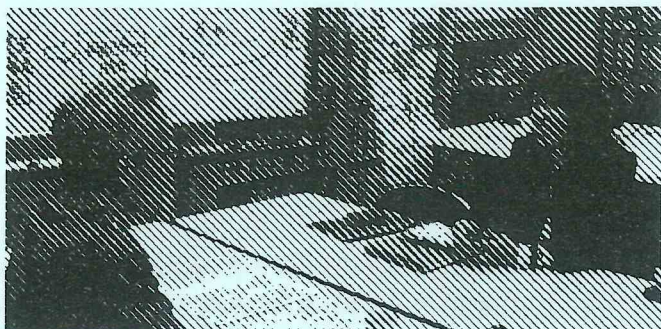
加藤：環境整備の中では情報と場所の話が出てきましたが、情報の「見える化」の部分がかかなり大きいでしょうか。当センターが指定管理者として管理・運営をしている市民活動サポートセンターやシニア活動支援センターでは、情報をデータベース化し整備しています。市民の方からご相談をいただくと一定程度は対応できるようになっています。並河さんがおっしゃるのは、Webサイトやインターネットを含めての情報化ということですか。

並河：庁内のワーキンググループの議論で、仙台市の高齢化が進む中では、やはり紙ベースで見える情報がないと活用しづらいだろうという意見がでました。ポータルサイトと併せて、いろいろな



ゲスト

並河 紋子さん
なみかわ あやこ
仙台市市民局市民協働推進部
部長



方々が活用しやすいように、情報のある程度集約して見えるようにしていきたいと思っています。

加藤:情報と場所はセットで考えないとだめなんですよ。地域拠点にどうやったらうまく情報が届くのか、あるいは相談ができるのか、仕組みとして整備する必要があります。骨プロ(註2)の拡張活用もあわせて考えて、地域に情報が届いていない状況や地域情報の交流不足が改善できればだいぶ違うと思います。情報と場所は、ぜひ頑張って整備して頂ければと思います。

並河:市では区役所を地域協働拠点と位置づけ、その機能を強化していく考えです。いろいろな方が来て、そこで気づきが生まれて、学びがありネットワークが広がっていくような機能をもつ拠点にしたいのです。人と物と情報がうまくまわるよう、地域の皆さんの意見も伺いながら進めていきたいと考えています。

■時代に即した協働の指針を再定義します

並河:市は全国に先駆けて1999年に仙台市市民公益活動促進条例を制定し、市民協働に取り組んできました。この条例は理念条例でベースの理念はしっかりしています。しかし、ここ10年で時代の変化もあり協働の部分が変わってきています。来年度はこれからの即した協働の指針を再構築し、市民の皆さんにも共有したいと思っています。また、職員の協働に関する意識改革も早い段階で行っていかうと考えています。今は各局で協働事業の認識がばらばらですから、まずはそこを揃えるところから始めます。事業の実績評価と協働の評価は違うんだという基本の位置づけを共有し、良い事例を出して競争できる役所にしていければいいかなと思っています。

加藤:協働が単発の事務事業として理解されるのか、恒常的に動かなければならない地域の課題解決のシステムとして理解されるのか、これからの協働を推進していく際の課題です。事実上、市民の協力を得てやっているものをきっちり協働と認識し、お金を出している、いないに関わらず評価する。しかもその評価に市民が関わる。認識を変えるのが先ではなく、市民がプロセスに関わることで認識が変わってきます。交じり合うことで波及効果が起こり、良いことが広まりやすくなるのです。そこに転換できるように、理念、指針を含めて議論を皆でして頂ければ、仙台市が再度トツ

プランナーになれるのではないかと考えています。

並河:難しい課題があり大変ですが、市全体がもっと元気になるよう頑張りたいですね。奥山市長も市民協働に強い思いを持ってらっしゃるので、その思いを具現化していくように頑張らなければ。

加藤:基本的には、庁内体制整備と市民側の自治の環境整備と協働の促進ですからね。今までの成果も評価しつつ、それぞれ不足しているところを、てこ入れしていけばいいわけです。我々も一緒に取り組んでいきたいと思っています。(記録・編集 小松州子)

註1:平成10年2月に策定した「仙台市基本計画(仙台21プラン)」の計画期間が22年度までであることや、現行総合計画策定の時期から社会状況の変動があることから、市では新しい総合計画づくりに取り組んでいる。

註2:当センターによる「仙台に情報の背骨を通すプロジェクト(略称骨プロ)」の提案で、市内の公共施設11館にチラシの共通ラックを設置、市民活動サポートセンターにチラシを持ち込めば、自動的に全館に配架されるしくみをつくっている。



加藤 哲夫さん
せんたい・みやぎNPOセンター
代表理事



せんだいCARES キャンペーン

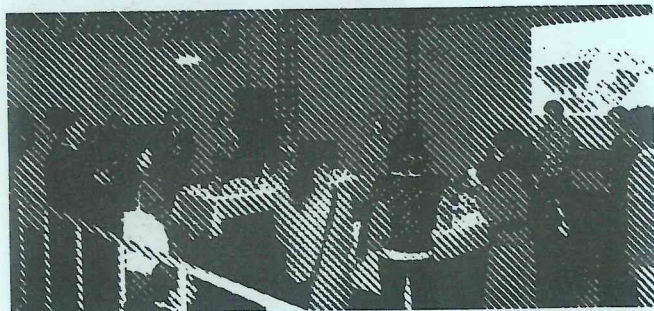
昨年で8回目を迎えたせんだいCARESは、仙台のNPO、市民活動団体の活動を市民のみなさまにご紹介する、年に一度のキャンペーン(10月1日(金)~12月17日(金))です。昨年は最終日にクロージングのイベントを開催いたしました。

■せんだいCARESクロージングパーティー&忘年会

2010年12月17日(金)、せんだいCARESキャンペーンの最終日に、クロージングイベントとして「せんだいCARESクロージングパーティー&忘年会」を開催しました。会場はいつもの仙台市市民活動サポートセンター地下の市民活動シアターで、約30名の方にご参加いただきました。今回のイベントの目的は、「せんだいCARES参加NPOや、協賛企業、行政の方々、実行委員との顔の見える関係をつくる」ということでした。司会のフリーアナウンサーの大葉由佳さんによる「3分間の笑いの体操」で、参加者のみなさんの緊張もほぐれて、和やかな雰囲気でのびんびんしました。その後、日頃せんだいCARESに協力していただいている企業の方々や、行政職員、NPOの方、実行委員、学生、事務局スタッフなどの自己紹介がおこなわれて、様々な職種の方々とのつながりをつくる場になりました。

■ピアノ演奏、すずめ踊りなど様々なプログラムも

パーティーの後半では、せんだいCARES協賛企業でもあるハリウコミュニケーションズ(株)の針生奏子さんによるピアノ演奏や、事務局スタッフも所属している仙臺阿阡祭連(せんだいあうんまづら)によるすずめ踊りもありました。針生さんはスペインへ5年間のピアノ留学の経験もある方で、素晴らしい演奏にみなさん聴き入っていました。美しいピアノの調べと楽しいおしゃべり、そして最後はすずめ踊りをみんなで踊り、キャンペーンの終わりにふさわしい盛りだくさんなイベントになりました。今年もより良い企画をしていきたいと思っております。2011年もせんだいCARESをどうぞよろしくお願いいたします。(田内亜紀子)



「伊達直人、現る!?!」 せんだい・みやぎ NPOセンター大新年会

1月12日(水)、仙台市市民活動サポートセンター市民活動シアターにて、当センター恒例の大新年会を開催しました。今回の目玉はドネーションパーティー(註)。

参加した皆さんには、自分の寄付行為によって喜ばしやすいまちづくりを支援しているという体験をしていただきました。また、全国各地で「伊達直人」と名乗る人物から、贈り物が児童養護施設へ寄付される中、会場にもたくさんの「伊達直人」が参加し、市民活動団体へ応援と寄付が寄せられました。

■ドネーション総額、なんと11万円以上!

ドネーション(寄付)を受ける団体は、当センター運営の「みやぎNPO情報ライブラリー」に登録している「宮城セントポールドリックスター2011」「プラチナ☆クラブ」「アトリエ虹色たまご」「いのちのこの葉プロジェクト」「NPO法人POSSE仙台支部」「認定NPO法人みやぎ発達障害サポートネット」の6団体。「いのち」をテーマに活動する市民活動団体がエントリーしました。今回のドネーションパーティーでは、持ち時間3分で各団体が活動を紹介し、団体の活動に共感した参加者が1枚500円のドネーションチケットを寄付していくというものでした。合計で140枚のドネーションチケットと、11社の企業からご寄付をいただき、総額で113,802円の寄付金が集まりました。

■寄付からはじめる地域貢献

今回のドネーションパーティーのように、たとえ団体の活動に参加することが困難な方でも、寄付という形で団体の活動に参加することができます。また、皆さんの寄付を受けた団体が、今後、どのような活動に取り組んでいくのか、団体ブログなどで日々の活動を情報発信していますので、これを機に見守り続けていくことも大切です。このような寄付行為が、住み良い「仙台・宮城」の地域を創ることにつながっていきます。(近藤浩平)

(註)ドネーションパーティー：NPOや市民活動団体が活動報告を行い、聴衆がその報告を聞き、支援したい団体に寄付を行うイベント。

みやぎNPO夢ファンド 中間報告会と交流会

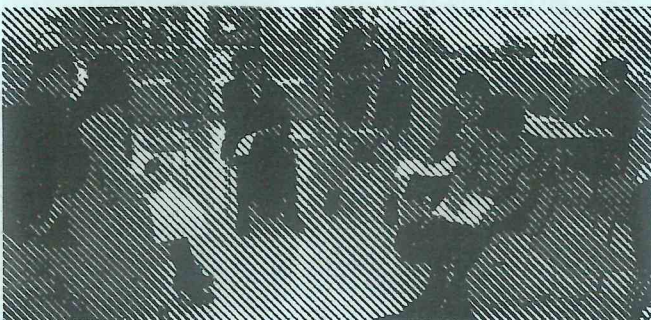
1月15日(土)、みやぎNPO夢ファンド中間報告会が、みやぎNPOプラザにて開催されました。今回は参加団体数が少なめだったことから、例年、2部に分けていたものを午後の1部のみで行いました。当日、事故により新幹線が不通となり、発表者が時間まで来れない!とハラハラする場面もありましたが、何とか今回も無事に終わることが出来ました。

■緊張の団体プレゼンテーション

午後1時半、まず年間で100万円の助成を受ける「ステップアップ支援プログラム」の3団体(特定非営利活動法人ほっぶの森、特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ、World Open Heart)の助成事業経過・成果のプレゼンテーションからスタートしました。このうちWorld Open Heart以外の2団体は、継続審査を兼ねた形での報告で、自然に審査員の質疑も鋭さを増していきます。休憩をはさみ、次は「スタートアップ支援プログラム」5団体(介護者応援ネットワークみやぎ、特定非営利活動法人オープンハート・あつたか、NPOゲートシティ多賀城、地域生活支援オレンジねっと、Remnant(レムナント)すくすく)の報告です。5分という短い報告時間に苦心しながらも、皆さん一生懸命に発表していました。

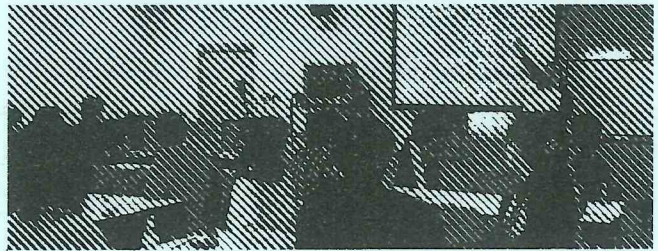
■出合いや協働が生れる場、「交流会」

報告会終了後は、すっかりお馴染みになった参加団体の交流会。どうしても都合がつかずお帰りになった方も数名いらっしゃいましたが、全員で車座になり、互いのプレゼンテーションを慰労すると共に情報交換を行いました。「こんな形で協力できるのでは?」という協働の提案や、「我々のイベントでチラシ配布してもいいですよ」といった協力の提案が出されるなど、報告会での緊張した時間とは違って、和やかな時間となりました。この場から新たな助成事業が生れることも、そう遠くないことかもしれません。(小川真美)



地域における環境政策提言 力向上セミナー

1月16日、仙台市民活動サポートセンターセミナーホールを会場に、地域における環境政策提言に関心のある東北6県の環境NPOの方を主な対象として、NPOがどのように政策を作っていくべきかについてのセミナーを開催しました。講師はIIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表者の川北秀人さんにお越し、主催は独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金部で、企画・実施を当センターが担当しました。



■活動だけでなく、行政・企業を巻き込んだしくみづくりを!

セミナーはまず川北さんの解説講義からスタートしました。NPOがしくみづくりに取り組む必要性について説明があり、続いて「NPOが社会を変えられない5つの理由」や、社会から求められていること(=ニーズ)の可視化、企業や行政に影響のあるプログラムのつくり方等について解説がなされました。

■東北6県の環境政策調査結果の発表

解説講義の後には、事前に各県の環境パートナーシップ団体においていた環境政策調査について、その調査結果と地域においてどのような政策が求められているかを、各県ごとに発表していただきました。

■政策づくりは、原因追究→対策→提案

午後からは、各県において取り組むべき環境政策の課題を個人作業で書き出し、その後は県ごとに分かれてのグループワーク。各県ごとに優先課題と政策立案計画にまとめて、参加者が相互に付箋でコメントを付け合い、内容をブラッシュアップさせていきました。

最後に川北さんから、政策をつくっていくためには、要望や要求を持っていくのではなく、社会の課題に対する原因を突き詰め、それに絞って対策と提案を行い、課題に対する具体的な効果を示すことが重要とのコメントをいただき、今回のセミナーを終えました。(布田剛)

みやぎソーシャルビジネスネットワーク(通称むすぶん)

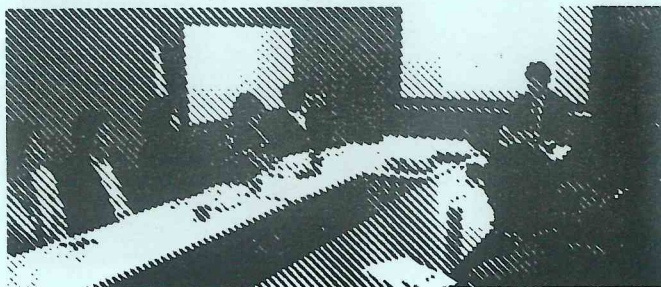
徐々に軌道に乗り始めた「みやぎソーシャルビジネスネットワーク(通称むすぶん)」。これからソーシャルビジネスの起業を目指す人や実践者を中心に、続々と会員が増えています。今回は、月に1~2回のペースで開催している勉強会のご報告です。

■障がい者の賃金アップと とうふ屋の再生を両立する「森徳プロジェクト」

2010年12月のゲスト会員は、森徳とうふ店の3代目である森新一さん。「涌谷町でおぼろ豆腐をつくる最後のとうふ店が廃業」というニュースを知った森さんは、涌谷町に対して「自分がおぼろ豆腐づくりを引き継ぐ」と提案。しかも、障がい者を雇用し、平均工賃の数倍を支払うというミッションも掲げています。立ち行かなくなったとうふ屋の再生と、障がい者の雇用創出・賃金アップ。個別でも大きな2つのテーマを一挙に解決してしまう仕組みをつくりだした森さんに、参加者からは賞賛の声が上がりました。

■採用弱者の雇用を生み出す「サテライト構想」

年が明けた2011年1月は、株式会社アイエスエフネットの谷岡さんをご招待しました。同社では、フリーター・ニート、障がい者、ワーキングプア、シニア、引きこもりを5大採用とよび、採用面で弱者となっている人たちの雇用を生み出す取り組みを展開。特に障がい者雇用については、「2020年までに1,000人を雇用」「月給25万円支給」という目標を掲げています。この会では、2月に仙台で立ち上がったサテライトオフィスについてご紹介いただきました。参加者からは、「自分の会社にもアドバイスをしたい」という声も。社会的な意識が伝染するという、むすぶんの目指す姿を象徴するかのような場となりました。(大橋雄介)



仙台市シニア活動支援センター 2011年大新年会

2月4日(金)、仙台市民活動サポートセンターの市民活動シアターにて、恒例の「大新年会」が開催されました。センターの成果報告や参加者同士の交流、そしてゲームなど、楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。スタッフ関係者を含め総勢102名が参加し、それぞれの夢や抱負を大いに語り合い、たいへん賑やかな立春の一日となりました。

■新しい年は「大新年会」に参加しないと始まらない？

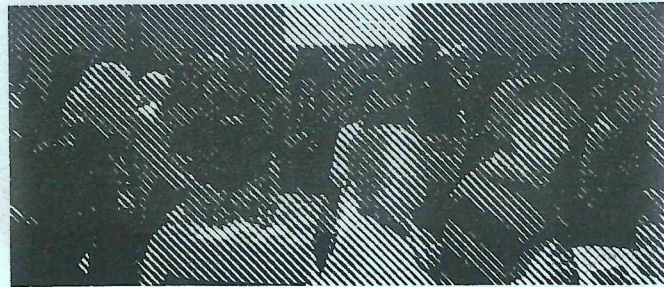
シニア世代のみなさんが60代を迎え、これからの進路を考える際に参考にしたいのは、やはり同年代や先輩たちの活動事例だと思います。多様な活動を行う人たちとの出会いは大きな刺激になるようです。「昨年も参加して良い出会いがあったから」と新年会を恒例行事にしてくださる方が増えてきました。

■実行委員会形式でより充実した内容に

今年の新年会は、初めて「実行委員会形式」で開催し、利用者やNPOの皆さま9名に、企画段階からご協力をいただきました。当日の受付、司会、そしてゲーム等の進行なども、すべて実行委員の皆さまに担当していただき、おかげさまで参加者が心から楽しめる手作りの会となりました。(新年会の様子は当センターの「スタッフブログ」でご覧いただけます)

■仙台の「シニアパワー」を全国区に!

大新年会を終えて、これから仙台のシニアパワーをもっともつと盛り上げていくためには、人や情報をつなぐコーディネーターの存在が必要だとあらためて感じました。当センターがそのコーディネーターとしての役割を果たしていけるよう、利用者の交流の場やさまざまなNPOなどに出会う機会をどんどん提供していきたいと思います。そして、「仙台は元気!」と全国が注目するような盛り上がりを作っていきたいです。(真壁さおり)



「フラスコおおまち」に大韓民国江原道庁による視察団が来日!!

2010年12月21日(火)、大韓民国の江原道経済政策課による東北ソーシャルビジネス推進協議会(以下TSB)に対する視察が、2時間にわたって「フラスコおおまち」で行われました。

■総勢9名が来日、主要質問事項とは?

当日訪問されたのは、通訳を含めた9名で、迎えるTSBと特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター側の参加者は、理事を含めた6人でした。事前に送られた質問事項に沿って、主に東北ソーシャルビジネス推進協議会理事の渡辺一馬さんが対応しました。

主要質問事項は、TSBの機能、役目、組織、財政を問うもの、地域内のソーシャルビジネス(以下SB)の現状、政府・自治体の支援制度、SBに対する住民の反応とこれからの展望、TSB運営の課題と解決方法などがありました。

■緊張と期待が高まるなか、いよいよ質疑応答開始

使節団の質問に対し、渡辺一馬さんは、「事務局としての役割はSBを支援する人達とのネットワークを形成し情報交換していく事です。これからの展望としてはSBが国や県だけにとどまらず、市町村レベルで一緒に取り組んでいくべき課題だと考えています。その為にも役所としてSB課があっても良いと進言しています。

また、若い人の中でこの国を良くしたいので起業したいと考える人が増えています。TSB運営の課題は対象となる範囲が広い為、きめこまかな支援が難しく、各県、各市町村の施策の中にSBを入れてもらい理解を深めてもらうことが重要です。」との説明がなされました。また、事前質問以外にも、組織運営の資金調達、スタッフの雇用などについて質問

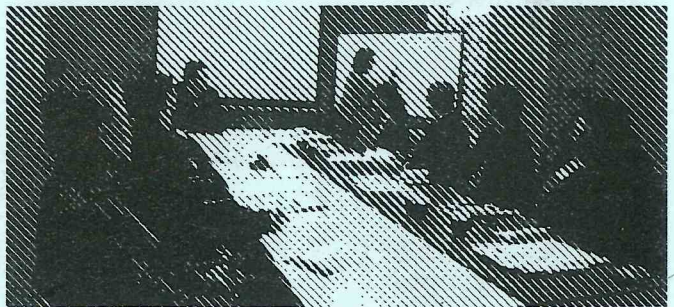
がありました。

次に日本から、韓国のSBへの取り組みについて質問したところ、使節団からは「SB先進国といわれる韓国での最大の課題は雇用を創出することです。」との説明がありました。

韓国の大学への進学率は90%ととても高く、一方で、大学の新卒の就職率はとても低いとのこと。政府からの支援を受ける事業で一番大切なのは雇用数であり、助成金の内訳は人件費と施設運営費とのことでした。

■韓国のSB取り組みに対する要望とは

最後に使節団から、私達に要望はありますか?という質問があり、渡辺一馬さんからは、「何か、地域の中でもう一歩踏み込んでSBをやってほしい」。特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター常務理事の紅邑晶子さんからは、「ぜひSBの現場へ足を運んで欲しい」との熱い要望が伝えられました。(高橋理恵)



「大町に精鋭がやって来た!」～冬のインターンシップ報告～

昨年10月から2ヶ月間、仙台市の「学生とNPO等を結びあわせるインターンシップ推進モデル事業」(註1)の一部である「CARESケアーズ」(註2)の一環として、大町事務局でインターン2名(藤澤直洋さん、大羽将夫さん)を受け入れました。彼らが所属するゼミの指導者であり、当センター理事でもある西出優子准教授から、「当ゼミの精鋭です!」という強力な推薦を受けて来られたお2人を紹介します。

■「まるで正職員!」な動きぶり

彼らの担当業務は「みやぎNPO情報ライブラリー登録内容の質向上」。約160の登録団体ファイル内容のチェックを行い、「少し工夫すれば情報開示レベルが上がるのに惜しい!」という約30団体をピックアップ。2人で手分けして団体にアプローチを行っていきました。なかなか連絡がつかない相手に困惑したり、情報開示に対する認識度合いに愕然としたり、この作業を通じて様々なことに気付いたことと思います。活動頻度は週に3日程度でしたが、積極的に仕事に取りかかる姿勢は、まるで正職員のようにでした。受け入れ側の我々スタッフも「挨拶やコミュニケーションの大切さ」など、彼らの存在によって改めて気づかされるものがあり、お互いに良い刺激になっていたと思います。ちなみに、11月に仙台市民活動サポートセンターで行われた仙台市主催の中間報告会では、大羽さんがインターンシップを通じて一番成長したという証の「ベストステューデント賞」に選ばれました。最後にお2人の感想をご紹介します。この機会でご得た経験を糧に、今後もさらなる活躍をなさることを期待しています。(小川真美)

1) NPOや市民活動に対しての考えはどう変化しましたか?

2) 勉強になったことを上位3つまで挙げてください。

藤澤直洋(ふじさわ なおひろ)さん(東北大学経済学部3年)

1) それぞれの団体の基盤が強くないからこそ、自発的に情報を発信して強みや弱みをシェアして助け合うべきだし、それができるのが非営利活動の良さでもあったと感じました。

2) 事業計画の作り方、イベント運営やお客様対応の仕方、NPOへの連絡の方法

大羽将夫(おおば まさお)さん(東北大学経済学部3年)

1) NPOで働き、生きて行くということは決して夢物語ではないのだと言う事を知りました。そして、NPOに携わる皆さんは明るく、芯が通った方ばかりだと感じました!

2) 仙台・宮城近郊のNPOの現状、NPOという生き方、イベントの大変さ(人集め・チラシ配り・会場設営etc)

(註1) 学生とNPO等を結びあわせるインターンシップ推進モデル事業…学生が市民活動や地域活動に主体的・積極的に参加することを応援し、若者の活力とまちの元気を生み出す取り組み。(仙台市HPより抜粋)

(註2) CARESケアーズ…学生が「せんだいCARES」参加のNPOでボランティアを行うプログラム。通常はケアする側のNPOも、ケアされることが必要という発想で始まった。

サポート・ご協力 ありがとうございます

■平成 22 年度会員(敬称略・順不同、2010年12月1日~1月31日)

(正会員)青木ユカリ、谷川俊太郎、エルネット仙台、木村正樹、(特)あいちNPO市民ネットワークセンター、世界快ネット、ハリオコミュニケーションズ(株)

(準会員)正村惟、葛西淳子、飯室真美、岡本恭典、佐々木孝行、(特)静岡県東部パレット市民活動ネットワーク、宮城県麗人会、岡崎トミ子、(特)ふくしまNPOネットワークセンター、(特)友愛さくら

■企業・団体協力(50音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて)、富士ゼロックス宮城(株)(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

フラスコ連続セミナー(全2回)

第1回 韓国に学ぶSB(ソーシャルビジネス)事情

日時: 2011年3月5日(土)13:00~16:00

講師: 桔川純子さん(日本希望製作所 事務局長)

内容: SB先進国、韓国での取り組みと、その成功事例紹介、意見交換会

第2回 地域協働のプラットフォーム構築に向けて ~「非営利株式会社」と「協働オフィス」の可能性

日時: 2011年3月19日(土)13:00~16:00

講師: 藤倉潤一郎さん(株式会社地域協働推進機構 代表取締役)

内容: 協働社会の実現に向けた新しいプラットフォーム構築の仕組みや、「非営利型株式会社」を設立した理由など紹介

会場: フラスコおおまち(当センターの入る岡元ビルの7Fです)

参加費: 1回 3000円

(MSBN(むすぶん)会員の方は割引制度が適用されます。)

(1回/2回同時申込みの場合は、2回で5000円に割引)

定員: 25名(事前申込必要)

申込: お名前・ご所属・電話番号・メールアドレス・受講回(1、2回の別)を明記の上、当センター(担当高橋)宛、メールかファクスにてお申込ください。

連絡先

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPO センター
〒980-0804 仙台市青葉区大町 2-6-27 岡元ビル 4F
TEL: 022-264-1281 FAX: 022-264-1209
E-mail: minmin@minmin.org HP: http://www.minmin.org/

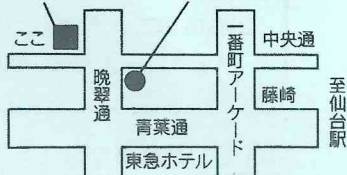
発行:(特活)せんだい・みやぎNPOセンター

代表理事 大滝精一・加藤哲夫 1Fファミリーマート セブンイレブン

編集部: 小川真美・紅邑晶子

発行日: 2011年3月1日

デザイン: 氏家朗



岡元ビル 4F 仙台駅から徒歩 20~25 分

プロペラトークス

今回のトークゲストは、シングルシニアが気軽に集まれる場創りや、パートナー探しを目的とした団体、「プラチナ☆クラブ」代表の今野江衣子さんです。人生折り返し地点を過ぎて、これから誰とどのような人生を送るのか。「いのち」をより充実させるためには欠かせないポイントです。シニア世代も、これからシニアになる方もぜひお越しください!

日時: 3月17日(木)19時~21時

会場: CAFE Con-combre [カフェ コンコンブル]
(青葉区中央 1-6-25 仙台クリニックビル1F)

参加費: 2500円(1ドリンク、軽食付き)

定員: 18名(要事前申し込み)

*定員になりしだい、締めぎります。

当センターブログでも詳細をご案内しております。

NPO 経営相談

開催日: 平成 23 年 3 月 16 日(水) 平成 23 年 4 月 12 日(火)

開催時間: 13:00~17:00

場所: せんだい・みやぎ NPO センター

相談料: 2,500円(1時間単位、会員は 500円引き)

*予約制です。まずはお電話を。

編 | 集 | 後 | 記 |

既にサボセン窓口でお気づきになった方もいらっしゃるかもしれません。当センターでは、2月初旬から3名の新しい仲間(職員)を迎えました。大町事務局での研修を経て、現在は配属施設(2名仙台サボセン、1名多賀城サボセン)にてOJT中です。次号の「みんな」にて自己紹介させていただきます。窓口におりましたら、ぜひ声をかけてください。ちなみにも、仙台は、堀隆一、難波美由希の2名、多賀城は阿部明日香と申します。これからどうぞよろしくお願ひ致します!(OGAWA)

「おおまち文庫」なるコーナーが大町事務局にできました。個人が持っていた本を持ち寄って、スタッフ間で貸し借りできるというコーナーです。あつという間に、棚の1段目が埋まってしまう勢いです。「沈黙の春」から「コーチング」の本まで、並んでいる書籍の背表紙を眺めていると、大町のスタッフがどんなことに関心を持っているのかが浮かび上がってくるようで、なかなか楽しめます。事務局にお越しの際は、ぜひこちらのコーナーをご覧ください。(べにむらあきこ)